

# 営農情報

第6号 平成26年9月5日

(大豆営農情報 9月号)

福岡大城農業協同組合  
南筑後普及指導センター

## 1. 大豆の生育概況

今年はやや梅雨明けが遅く、播種作業は全体的に遅れて行われましたが、適度な土壌水分により出芽は良好でした。しかし、その後の断続的な降雨による湿害や日照不足により、生育量が小さく開花期も7～10日程度遅れています。また、降雨により中耕・培土を実施できていないほ場も散見されます。

## 2. 今後の対応について

中耕・培土を実施しておらず、生育不良のところは、排水、雑草対策のため天候が回復次第できるだけ実施してください。

ただし、培土の量が多すぎると大豆の根を傷めたり、収穫時のコンバインの泥かみの原因となることがありますので、やや軽めに行ってください。

## 3. ハスモンヨトウ、カメムシ、紫斑病の防除について

ハスモンヨトウやカメムシの発生は、平年よりやや少ない状況です。紫斑病については、結実期に雨が多く涼しい天候が続くと多発する可能性があります。今後は、排水溝の整備など排水対策の徹底とともに、ハスモンヨトウの発生に注意し、下記のとおり防除を行ってください。

**防除適期 9月18日～23日頃**

ハスモンヨトウとカメムシ類・紫斑病の同時防除を行います。

適用病害虫名	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a 当たり 薬剤量
ハスモンヨトウ	プレバソフアブル5	4000倍	収穫7日前まで	2回以内	25m l
カメムシ類	キラップアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	50m l
紫斑病	トップジンM水和剤	1000～1500倍	収穫14日前まで	4回以内	70～100m l

※【散布量】 10a 当たり100～300リットル